

資料館だより

2023.7.5 No.119 (季刊)

編集・発行 国立ハンセン病資料館

なり た みのる 成田稔名誉館長を偲んで

当資料館の成田稔名誉館長におかれましては、この令和5年4月9日、95年のご生涯を閉じられました。謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみを申し上げます。

成田名誉館長は、昭和25年、東京大学医学部附属専門部をご卒業の後、昭和43年、国立療養所多磨全生園整形外科医長に就任され、同園副園長を経て、昭和60年に同園園長に就任されました。平成7年には日本らい学会（現：日本ハンセン病学会）の元会長として、学会として「らい予防法」反対の決議を出すのに尽力されました。平成5年に同園長を退官（名誉園長に就任）され、高松宮記念ハンセン病資料館運営委員長を経て、平成19年に国立となりリニューアル開館したハンセン病資料館の館長に就任されました。爾来、令和3年7月に館長を退官されるまで、ハンセン病専門医、そして多磨全生園園長等としての格別の知見等を踏まえて、国立ハンセン病資料館の業務等を軌道に乗せ、充実させるのに多大なご苦勞をいただきました。

名誉館長に就任されてからも、大所高所から、当資料館の運営等についてご助言をいただきました。改めて、生前の長年にわたるご貢献に深く感謝申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

令和5年4月

国立ハンセン病資料館館長 内田博文



故・成田稔名誉館長



多磨全生園入所者らが感謝をこめて作った成田庭苑にて
(左：平沢保治さん)

略歴

- 1927年9月1日 札幌市に生まれる
- 1950年 東京大学医学部附属専門部卒業
- 1951年 東京大学医学部病理学教室研究生
- 1955年 国立療養所多磨全生園医務課
- 1968年 国立療養所多磨全生園整形外科医長
- 1981年 国立療養所多磨全生園副園長
- 1985年 国立療養所多磨全生園園長
- 1992年 国立多磨研究所（現：国立感染症研究所ハンセン病センター）の所長併任（1年）
- 第65回日本らい学会（現：日本ハンセン病学会）を主催
- 同学会の庶務幹事を務め、学会としてらい予防法反対の決議を出すに至る
- 1993年 国立療養所多磨全生園名誉園長
- 高松宮記念ハンセン病資料館運営委員長
- 2007年 国立ハンセン病資料館館長
- 2021年7月 同館名誉館長
- 2023年4月9日 没 95歳

企画展「らい予防法闘争」七〇年—強制隔離を選択した国と社会—

8月13日(日)～12月10日(日)まで、当館企画展示室において2023年度企画展「らい予防法闘争」七〇年—強制隔離を選択した国と社会—を開催します。

「らい予防法闘争」(1952年10月～1953年8月)は、ハンセン病回復者の運動の歴史に深く刻まれた闘争の一つです。入所者に様々な被害を与えてきた「癩予防法」を、治療薬プロミンと日本国憲法の登場という時代の変化に即し、基本的人権を尊重する法律に改正しようとして、全患協(現在の全国ハンセン病療養所入所者協議会)は粘り強い闘争を展開しました。

1953年4月ごろから、法律の改正を求めて全国の療養所で患者大会・デモ行進・患者作業放棄・ハンガーストライキといった激しい運動が展開されます。その後、自分たちの要求からかけ離れた改正案が政府

から提出され、政府原案どおりに国会審議が進んでいくと、運動は国会への直接陳情、国会・厚生省での座り込みへと発展しました。8月6日の参議院での法案可決後は、8月10日から厚生省との間で徹夜を含めた会談が連日行われますが、8月13日に運動は終結を迎え、「らい予防法」は8月15日に施行されます。参議院ではその後の全患協運動の足掛かりとなる九項目の附帯決議がつけられたものの、日本ではこれ以降も長く隔離政策が取られることになります。

全患協は、闘争の当初は文書活動を中心として、政府・療養所長、そして国会議員に対して「癩予防法」の改正を求めました。「らい予防法闘争」は激しい戦術に注目が集まりがちですが、その前後では改正案につ

いての話し合いが存在していました。社会から孤立した運動とも言われていますが、法案の制定に関わる人々や新聞社に対して幾度となく自分たちの要求を訴え続けたのです。その結果、国会議員や療養所長らも全患協との協議を重ね、全患協の主張と闘争の経過は新聞を通じて社会に報じられました。しかし、それらの動きのなかに、全患協の要求に反する内容が含まれていた点にも注意する必要があります。

なぜ70年前、「らい予防法」が成立したのでしょうか。本企画展では、全患協を中心とした運動の展示だけでなく、法制定に関わった政府・療養所関係者と国会議員の発言、そして当時の新聞記事と共に振り返ることで、「強制収容」を含んだ隔離政策を行う「らい予防法」を誰が求めたのかを考えます。そして、現在の



帰国を求める政府関係者(国会にて)、1953年撮影

ハンセン病問題についても考えるきっかけになることを願っています。

会期中には一部資料の展示替えを行います。展示した文書資料の一部を収録した資料集を無料で配布します。様々なイベントも開催する予定です(事前申し込み制のものもあります)。

(田代学)



ミュージアムトーク

当館ではハンセン病問題をさまざまなテーマで考えるために、当館学芸員による以下の「ミュージアムトーク」(会場/オンライン)を開催いたします。プログラムの内容とお申込み方法等の詳細は当館のホームページをご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしています。



2023年9月30日(土) 14:00～15:30
「らい予防法闘争」七〇年

講師：田代学(事業部事業課、学芸員)

2023年冬
「在日朝鮮人入所者と文学」

講師：金貴粉(社会啓発課、主任学芸員)

2024年春
「絵ごころでつながる—多磨全生園絵画の100年」

講師：吉國元(事業部事業課、学芸員)

6月3日(土)に開催した西浦直子(社会啓発課課長、学芸員)による
「趙根在が写した『その人』の物語をよむ」の様子



ご参加者の声

趙根在さんが、金奉玉さん、沢田二郎さんらと信頼関係を築き、「その人」の人生そのものを記録した大切さがよく分かりました。

「写す人間と写される人間との合作」という言葉が印象に残りました。「差別のなかの差別」の記録を世に残しておかなければというお二人の思いが、国立ハンセン病資料館で保管・公開される形で引き継がれていることに安堵します。

(吉國元)

夏休み子ども向けイベントのお知らせ

夏休み期間中に小学校4～6年生を対象としたイベントを開催予定です。

【かんたん展示解説】では、学芸員が展示室をまわりながら、はじめてハンセン病問題に触れる小学生の方

も、わかりやすく解説をします。7月22日(土)、7月23日(日)、8月1日(火)は対面での開催、8月5日(土)はオンラインでの開催予定となっています。開催時間は10:00～11:00、13:30～14:30です(8月5日(土)は10:00～11:00の回のみ)。事前申し込み制のイベントですので、参加をご希望される方は国立ハンセン病資料館のホームページにアクセスいただき、お申込みください。

【体験してみようハンセン病療養所の暮らし】では、資料や展示に実際に触れながら、ハンセン病療養所の暮らしについて、学芸員と一緒に考えます。開催日時は7月30日(日)、8月6日(日)の2日間、開催時間は両日ともに16:00～17:15となっています。こちらのイベントは対面での開催のみとなります。参加をご希望される方は国立ハンセン病資料館公式HPよりお申込みください。



また、小学生の皆様からの相談や疑問に学芸員が回答する質問コーナーを7月30日(日)、8月6日(日)の開館時間中に開設予定です。

ほかにも、図書室では夏休み期間中ならではのおすすめの図書の紹介をしています。参加申し込み制のイベントは定員に達し次第受付終了となりますのでご注意ください。皆様のご参加をお待ちしております。(牛嶋渉)

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

休：休館日 休：図書室休室日 夏：夏休み子ども向けイベント ミ：ミュージアムトーク
：企画展開催 ☆：企画展ギャラリートーク(各日14:00～14:30)

高校生がアクティブラーニングを開発！

～後世に差別を残さないために～

栃木県立佐野高等学校の大山育夢さん、坂田公希さん、清水建成さん、
若林仁瑛さんが「第8回高校生国際シンポジウム」（一般社団法人グロー
カルアカデミー主催）において、ポスター「ハンセン病差別問題啓発活動
におけるアクティビティを用いた授業の有用性に関する考察」で教育分野
の優秀賞を獲得しました。彼らにインタビューしましたのでご紹介します。



受賞の報告に来館

左から坂田さん、清水さん、若林さん、大山さん

2021年に資料館学芸員による出張講座を受講し感銘を受けて、ハンセン病問題に関心を持ちました。2022年「ハンセン病問題に関するシンポジウム」（厚生労働省、法務省、文部科学省主催）へ参加し知識を深め、校内生徒の多くがハンセン病差別問題への関心が低いことに着目、若者が他人事ではなく自分事として気づくことができるアクティブラーニングを開発しその効果を実証しました。

佐野高校ホームページ



▶各アクティビティとその狙い

1. なかまさがし：参加者の手の甲にシールを貼り、「仲間を作ってください」とのみ指示する【きっかけがあれば親しい人でも無意識に差別をしてしまうこと 差別発生の容易性 感染症の流行時における差別状況の体験】
2. フェイクニュースをさがせ！：ネットブログや数社の新聞記事から誤りを探す。【権威のある機関からの情報でも誤りを含む場合があります 容易に信用せずに一度疑うこと】
3. Xを探せ：授業の前に予め3人の腕にひもを巻いてもらう。終盤に残りの参加者でこの3人を探す。【感染症の流行時における家族の気持ちを体験 大人数から逃げる恐怖・難しさ】

実験前後に行ったアンケートによりハンセン病問題への関心が大きく高まり、その効果が確認できました。今後はアクティビティの改善を図りながらハンセン病問題を通じた人権教育の拡大を学内外で継承できるよう体系化していきたいです。

アクティビティの開発には多くの苦労があったそうです。複合的な目的に対し、いかに短時間で効果を出すか、その議論には多くの時間を要したそうです。問題点を他者と共有し、楽しめるアクティビティを通して啓発活動を実践するやり方を生徒自身が見出しました。当館の学芸員と交流し感銘を受けたことが、このように大きな研究成果に発展したことは、当館の出張講座の成果にもなりました。最後に進路について聞いてみました。正しいと思っていた法律が、ハンセン病問題では悪化の要因のひとつであったことを知り幅広く法律を学びたい、また、生きることの自由を軸にその人に合ったキャリアデザインを支える人になりたい、差別問題に触れる機会が少ないと思われる理系の学生にハンセン病問題を知ってもらいたいなど、目を輝かせて語ってくれました。

（菅原広恵）

国立ハンセン病資料館 利用案内

■開館時間 9:30～16:30

■入館 無料

■休館日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）、年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■交通
・西武池袋線 清瀬駅南口より 西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分（「ハンセン病資料館」下車）
・西武新宿線 久米川駅北口より 西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分（「ハンセン病資料館」下車）
・JR武蔵野線 新秋津駅より 徒歩約20分

出張講座案内 団体見学案内

